

会 議 録

会議名	令和4年度第2回丸亀市総合教育会議
開催日時	令和4年7月29日（金）13：30～14：45
開催場所	丸亀市役所4階特別会議室
出席者	<p>出席委員 松永恭二（市長）、末澤康彦（教育長）、徳永秀文、松岡舟、福田康知、井下由美（以上敬称略）</p> <p>事務局 市長公室長 山地幸夫 （市長公室秘書政策課）課長 窪田徹也、政策マネジメント室長 高倉鋭悟、安藤悠子</p> <p>市出席者 教育部長 七座武史 （教育部総務課）課長 吉野隆志、副課長 土井節子 （教育部学校教育課）課長 岩井俊明、主任指導主事 御厨貴利、指導主事 立石陽志</p>
議 題	(1) 部活動の地域移行について
傍聴者	0人
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	ただ今から令和4年度第2回丸亀市総合教育会議を開会します。本日の協議事項は、「(1) 部活動の地域移行について」の1件です。未定の部分も多いですが、現段階での皆様のご意見を伺いたく今回の議題とさせていただきました。会議の進行については、松永市長にお願いします。
松永市長	<p>「部活動の地域移行」については、国において、運動部活動から段階的に地域移行を進めていこうとしています。丸亀市としてもどのように進めていくか検討しなければならない課題の一つであることから、今回議題に挙げさせていただきました。</p> <p>それでは、国や県教育委員会が掲げている方向性などについて、事務局より説明をお願いします。</p>
御厨	<資料に基づいて説明>
松永市長	引き続きまして、丸亀市の令和5年度に向けての取組について、事務局より説明をお願いいたします。
立石	まず1点目ですが、今年度については、夏休み期間中に各部活動の状況を聞き取ること考えています。各部により、活動状況や部員数等、さまざまな事情がありますので、丸亀市教育委員会としては、丁寧に現状を聞き取るということでスタートした

	<p>いと考えております。</p> <p>2点目は、来年度より部活動指導員の配置を考えております。資料として、部活動指導員配置促進事業実施要領を配布していますので、資料に沿ってご説明いたします。</p> <p><資料に基づいて説明></p>
松永市長	<p>以前から外部コーチに来ていただくことはありましたが、顧問である学校の先生が中心になって指導していると思います。指導員を配置すると、今後は外部の指導員が中心になるということですね。さまざまな問題があると思いますが、国の提言もあり、なるべく地域移行を進めていかなければならないということでしょうか。</p>
末澤教育長	<p>今回、総合教育会議で本件を取り上げていただき非常にありがたく思っています。これからどうするかということは、現状を踏まえて考えていかなければいけません。国としての方向性はありますが、今後どうするかを考えていく上で、まずはいろいろな立場からの意見を把握しておく必要があると思います。国は働き方改革や、少子化等の問題意識から提言されていますが、これは中学校教育をどうしていくかという大きな問題も絡んでくるので、教育委員会としてどうするか、何を目指すかということをもまず議論できたらありがたいと思います。</p>
福田委員	<p>一つ心配事ですが、部活動は競技力の向上だけでなく、非常に教育的な意義があって、子どもの精神面など教育的配慮を伴った指導を、中学校の先生方はしておられると思っています。やはり中学校の継続的な配慮というのは子どもの成長段階において非常に大切な過程です。今後、地域移行するにあたって、指導者の研修等を十分にしないと、かえって子どもにづらい思いをさせたり、保護者が不信感を持ったりということにも繋がりがねないと思っています。</p>
松永市長	<p>地域の中にも優秀な指導者はたくさんいらっしゃいますが、今教員が一生懸命部活動にも注力してくれていますから、そのような懸念も出てくると思います。</p>
福田委員	<p>優秀な指導者を今後どう探していくかも大事になります。協議会のようなものを作って、指導者の探し方を含め今後の方向性を話し合う場が必要だと思います。</p>
松永市長	<p>質問ですが、今回の部活動の地域移行というのは、国は東京や大阪など都会を中心に進めていくのでしょうか。</p>
御厨	<p>国は全国一律に進めていこうとしていますが、やはり都市部と地方とでは、地域のスポーツ団体の数など状況が違いますので、そこは大きな課題になると思います。学校の部活動だと家庭の負担もそれほど小さくなく入部しやすいと思いますが、地域のクラブとなってくるとハードルが高くなる部分もありますので、入部する子が少なく</p>

	<p>なってしまう可能性もあるのではないかと心配しているところです。</p>
松永市長	<p>昔に比べたら、地域のクラブチームは増えてきているのでしょうか。</p>
御厨	<p>増えてきている競技もあります。</p>
松永市長	<p>国としては地域のクラブに任せましょうということでしょうか。</p>
御厨	<p>運営主体は地域であるということが示されています。</p>
徳永委員	<p>中学校で35年間、現場一筋でやってきた立場として、やはり部活に一生懸命取り組む先生は、教科指導も一生懸命されるし、生活指導もきちんとやられる、ものすごくエネルギッシュな方がほとんどです。それは部活動に対する教育的な価値を肌で感じているからだと思います。部活動の意義というのは、だんだん認められてきていて、中学校の学習指導要領の総則でも、教育課程外のことですが教育的な価値があると位置付けられています。部活動は学校教育の中で大きなウェイトを占める教育活動であると思っています。先生方にとっても、教育的な価値のある営みだと思いますが、その中で地域に移行するという事は、教育そのものがおかしくなるような事態が起こりかねません。</p>
松岡委員	<p>教育的価値については、今現在どのように位置付けているか明確にして、地域に移行してもそれを担保することが必要だと思います。それから、学校から部活動がなくなると、学校に行く理由、学校における居場所を失ってしまう子が一定数いるのではないかと心配しています。</p>
末澤教育長	<p>あるアンケートでは、部活動があるから学校が楽しいと答えた生徒が多くいます。生徒は学校でいろんなことに取り組んでいて、勉強ができる子、運動ができる子などそれぞれの良さがあり、その子の良さをどう捉えるかという点で、一つその評価ポイントがなくなってしまう可能性はあります。部活動があることでどうにか学校と繋がっている子をこれからどうしていくか考えていかなければなりません。</p> <p>また、保護者や地域の方は我々以上に情報が少なく、ご存知ないところもありますので、この内容が明らかになると、様々な立場からご意見をいただけたらと思っています。それを踏まえた上で、我々としてどういう形にするかということを考えていく必要があります。</p>
井下委員	<p>中学校に上がる時はまず「どんな部活動をするの？」と子どもに声かけします。やはり部活動の存在は大きく、先生が見てくださっているというところで、普段の学校生活の中でも、部活動で頑張っている子だと認められる一因になり、学校へ来る意味というところにも繋がってくるのではと思います。</p>

	<p>専門的な指導が難しいという先生にとっては、専門の外部講師がいるのは心強いと思いますし、保護者や生徒にとってもありがたいことだと思いますが、それが全部丸投げと言いますか、先生も関わらずに全て外部講師の方になると不安は大きいです。先生の働き方改革をこの部活動の部分だけで解決することはできないのではないかと思います。</p>
<p>福田委員</p>	<p>いろいろな懸念があって、このまま移行するのはいかなものかというところはありませんが、国の方はどんどん進めており、ここで止まっているわけにもいきません。令和4年6月6日にスポーツ庁から「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」が出ておりまして、その中の現状と課題の部分で、『現行の中学校学習指導要領に部活動が、「学校教育の一環」として位置づけられていることから、部活動は必ず学校において設置・運営しなければならず、また教師が指導しなければならないなどの誤解が生じているとの指摘もある』とされています。このまま踏みとどまることもできないのであれば、今懸念していることをうまく解決して地域に移行していく必要があります。</p>
<p>末澤教育長</p>	<p>学習指導要領では必置ということではないのは確かだろうと思いますが、現状や保護者・先生方の意識との違いはあり、もう一度見直す必要があると思います。次の学習指導要領では、スポーツ庁の検討内容とも整合性を持たせてくるはずですが。</p>
<p>松永市長</p>	<p>地域移行には懸念があるという意見が多いですが、他にご意見はいかがですか。</p>
<p>徳永委員</p>	<p>働き方改革というのは教育の世界だけでなくほぼ全ての職場に浸透しつつありますが、その結果何が残ってきているのか、日本全体のことを考えたら国力としてマイナスの方向にいつているのではないかと思います。職業を通して自分のやりがいを感じられるからこそ、その職場でいろいろな仕事ができる、そこからいろいろなことが生まれて次に繋がるなど、そのような良い循環が生まれないと駄目じゃないでしょうか。教育の世界でも、もちろん働き方改革は進めなければいけません、あまりにも進めすぎると教育そのものが壊れてしまうのではと危惧しています。</p> <p>それに若い先生の中には、専門外の部活動の顧問となっても一生懸命エネルギーを注いでいる方もいて、その部活動を強くしたら保護者から評価をされます。専門でなくても一生懸命やる若い先生が評価される機会を奪ってしまうことにもなりかねません。これから新しく教員採用される先生に夢を持ってもらうためにも、この施策は見直していただきたいというのが本音です。</p>
<p>松永市長</p>	<p>実際、20代30代の現場の若い先生方は、このことをどんなふうに思っているのでしょうか。</p>
<p>末澤教育長</p>	<p>「内外教育」という雑誌で、名古屋大学の内田准教授が紹介していたデータによる</p>

	と、「部活動に関わることは楽しいか」という問いに対し約6割の教員が「楽しい」と回答していますが、一方で、部活動の地域移行に関する教員の意見として、全体の約8割の教員が賛成となっています。ですので、現場の先生方の声や、今の丸亀市の部活動の状況をしっかりと把握をする必要があると思います。その上で、方向性をしっかり定めなければなりませんし、今後3年で完璧なものを求めていくのではなく、常に現場の状況を把握しながら、それを検証してフィードバックしていく必要があります。
福田委員	先ほど紹介したスポーツ庁の提言の中で、令和4年度の取り組み例として、「運動部に入っていない生徒も含めた生徒・保護者のニーズや教師の意向をアンケート等で把握する」ことや、市町村において「協議会を設置」するということが挙げられています。いろいろな意見を聞きながら前に進めていく必要がありますが、どうすれば国が考えているところまでやっていけるのだろうかと思います。
松岡委員	指導者の質をどうやって保証するかということも非常に重要だと思います。学校では管理職や同僚に相談できる環境があつて異動もあります。しかし地域の指導者の場合、情報交換の場は少ないのではないのでしょうか。また何か問題が起こっているときに、何かしら抑止力がないと、参加している子どもたちが辞める形でしか抗議できないのは、子どもにとって良い改革ではありません。
松永市長	地域の指導者の場合、教員が指導するよりも、保護者とのトラブルが増えないか心配なところです。
井下委員	どういった方が指導してくださるのでしょうか。夕方の16時や17時に来られる人がどれだけいるか疑問です。これだけをする仕事というのも難しいと思います。他の仕事をされている方ではなく、やはりもう引退された方になるのでしょうか。若いから良いということではないですが、スポーツ少年団などを見てくださっているコーチは、土日は参加できても平日は無理という方もたくさんいます。部活動の時間帯に来られる方を確保できるのか疑問です。
末澤教育長	部活動指導員配置促進事業の制度は数年前からありますが、他の市町では指導員を5人依頼しようと予算を取ったものの、その5人が埋まらないという現状もあると聞きました。なかなか平日は難しいですとか、都市部であれば民間のスポーツクラブや大学など受け皿があるといった状況が想像できます。
徳永委員	部活動指導員の話が出ましたが、丸亀市の状況はどうか。
立石	国の施策については、可能であれば来年度手を挙げたいと考えています。現在、市の施策としては、外部指導員という形で、運動部で11名、文化部で12名の方に年間1万円の謝礼でご協力いただいています。県の事業としても、昨年度は運動部に7名の

	外部指導者が入ってくれており、年間 10 回の指導、実際は 10 回以上指導してくれていますが、謝礼は約 3 万円です。
松永市長	主は教員の顧問の先生ですよ。
立石	はい。
徳永委員	試合の場合、外部指導員だけで引率できますか。
立石	外部指導員だけでは引率できませんが、県大会等については、コーチ登録することでベンチに入れます。国の施策の部活動指導員という立場であれば、教員の負担を減らすために単独で引率できるようになります。
松永市長	部活動指導員の報酬である 1 時間あたり 1,600 円は市からの支出になりますか。
立石	国が 3 分の 1、県が 3 分の 1、市が 3 分の 1 の負担になります。
末澤教育長	市においても財源がないと進めていくのは難しいと思います。
松永市長	他に、委員の皆様や事務局より何かご意見等ございますか。
	<特になし>
松永市長	本日たくさんのご意見をいただきましたので、丸亀市で今後どのように取り組んでいくかを検討する際の参考にさせていただきます。また本議題については今後も意見交換させていただきたいと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。 本日の議題はこれで終了いたします。
	(会議終了)